

第 5 回アジア太平洋評価学会（APEA）大会開会式
英利外務大臣政務官挨拶（和文仮訳）
（2025 年 11 月 12 日）

ご列席の皆様、おはようございます。

第 5 回を迎えるアジア太平洋評価学会（APEA）大会及び EvalVisionAsia2025 の初めての日本での開催、そしてご参加の皆様を心から歓迎いたします。

日本は、アジア太平洋地域における開発協力を効果的に促進するためには評価におけるパートナーシップが重要との認識の下、パートナー国の評価能力の向上に早くから着目し、約四半世紀前の 2001 年、ここ東京で、第 1 回 ODA 評価ワークショップを開催しました。その後、数年にわたり、ODA 評価ワークショップの機会に関係者が集まり、評価ネットワークに関する議論が重ねられ、2012 年の APEA 設立へと実を結びました。

この度、第 5 回 APEA 大会のプログラムの一部として、APEA との共催により、第 20 回の節目となる ODA 評価ワークショップを東京で開催できることは大きな喜びであり、誠に感慨深いことであります。

日本は、評価の経験・知見を共有するプラットフォームを継続的に提供することで APEA の設立及び活動を後押しし、アジア・太平洋地域の行政官を招聘して評価について議論する場を提供してきました。

そうした中で、アジア太平洋評価学会（APEA）、EvalYouth Asia、南アジア開発評価議員フォーラム（PFDE-SA）、その他の主要なパートナーによって、2020 年 12 月にアジア太平洋地域評価戦略（APRES）が包摂的なプロセスを経て策定されたことは画期的なことです。同戦略は、アジア太平洋地域が直面する喫緊の課題に対応するとともに、地域全体で国家開発目標や SDGs に前向きに貢献するために、評価の利用を促進することを目指しています。

APEA の活動は、これまで日本が取り組んできた人材育成支援にも繋がるものです。また、日本と APEA は地域全体の評価文化の醸成を促進するために取り組んできました。このような APEA の活動が日本の国際協力の推進に貢献していることが認められ、本年、APEA が外務大臣表彰を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

近年、ロシアによるウクライナ侵略や現下の中東情勢、感染症や気候変動をは

じめとする地球規模課題など、国際社会は複合的な危機に直面しています。SDGsを含む「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の採択から 10 年が経ちましたが、これらの複合的な危機により、SDGs の達成は厳しい状況にあります。

しかしながら、我々はかつてないほどに緊密な連携を保っており、複合的な危機はむしろその結びつきを一層深めています。日本は、国際協力の枠組み、とりわけ評価においても、長年にわたり、共創と対等なパートナーシップの精神をその中核に据えてきました。

現下の国際情勢に鑑み、我々はこの方針を一層強化していく所存です。すなわち、多様な関係者間の包摂的な対話と連携を通じて解決策を創出し、共通の目標の下、全員が持つ強みを結集してまいります。

最後に、本日よりご列席の皆様方に、心からの感謝と敬意を表します。モニタリング・評価及び能力構築は、我々が今日共に直面する多様な社会課題の解決に向けた極めて有効な手段となります。この取り組みにおいて、皆様お一人おひとりが日本並びに国際社会にとって重要な役割を担う関係者であり、日本は、本日よりご列席の皆様に加え、各国政府、国際機関、民間企業を含む様々な関係者の皆様との連携及びパートナーシップを一層強化していきます。

本大会が実り多いものとなることを祈念いたします。

ありがとうございました。

(了)